

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	東京工業大学	整理番号	C03
プログラム名称	情報生命博士教育院		
プログラム責任者	関根 光雄	プログラムコーディネーター	秋山 泰

(評価決定後公表)

(総括評価)

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

生命科学と情報科学の両方を理解し一方の専門性を深めたΓ型人材養成という明確な目標を掲げ、体系的なカリキュラムの整備とともに、グループ型問題解決演習、異文化コミュニケーション科目、学生主体で行う国際夏の学校など特色ある取組がなされており、専門の枠を越えて協働することの重要性を理解した学生が育ちつつあり、リーダーを養成する学位プログラムが確立していると評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性、グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、Γ型人材を養成するために、年齢構成や産業界出身者の活用などが考慮された参加教員によるメンター制度や産業界若手メンター制度を設け、きめ細かい学生指導がなされており、その結果、特に生命系のΓ型人材養成では、従来のような研究者志向だけではなくベンチャー起業を志すなど学生の意識変化が感じられる。今後はさらに幅広く産学官民の各界で、また国内だけでなく国際的に活躍するグローバルリーダーの養成を目指すことが望まれる。

優秀な学生の獲得については、生命科学の分野で情報科学を理解できるΓ型人材は社会的にもニーズが高く、本プログラムには生命系から優秀な学生が多く参加している。一方、情報科学の分野において生命科学は一つの応用分野に過ぎず、情報系から参加している学生数は少ない。当初計画のように生命系Γ型教育と情報系Γ型教育を同列に扱うのではなく、両者のバランスを見直す必要がある。同時に生命系、情報系いずれの学位審査においても、世界に通用する確かな質保証システムの構築を期待する。

事業の定着・発展については、大学として、学内の他のプログラムも含めた支援体制が確立している。事業の支援期間終了後の計画についても大学全体で具体的な検討がなされ、学部・大学院教育制度改革にリーダー教育を組み込むことが予定されている。本プログラムで進められてきたΓ型教育の定着・発展が期待される。